

最終処分と合意形成を考える日独シンポジウム

原子力発電を持った以上逃れられない核のゴミ問題、
最終処分に向けた合意形成はどのように行っていくのか——
日独の事例から考えます。

● プログラム

- 1 「ドイツ・白紙からの最終処分場選定」 ベアベル・ヘーン氏
- 2 「日本の高レベル廃棄物処分問題の経緯」 原子力市民委員会
- 3 ディスカッション「核廃棄物最終処分：合意形成のあり方を考える」
コーディネーター：茅野恒秀（信州大学 / 原子力市民委員会）
「ドイツ・処分場委員会に参画する環境団体」 吉田明子（FoE Japan）
「将来世代としての提案」 西島香織（A SEED JAPAN）
ベアベル・ヘーン氏
その他、候補地となっている自治体、
原子力市民委員会第2部会より2名登壇。（調整中）

● ベアベル・ヘーン氏



1952年5月4日ドイツ・フレンスブルクに生まれる。キール大学にて数学と経済を専攻。1985年から緑の党会員として活動。同盟90/緑の党連邦議会議員として2006年5月から2013年9月まで会派副代表を務める。再生可能エネルギー、原発、気候変動、消費者保護などを中心テーマとして活動し、現在、ドイツ緑の党連邦議会議員。委員長環境・自然保護・建設・原子炉安全委員会委員長をつとめる。

核のゴミ はどうする!?

2015年 7月31日(金)

18時45分～20時45分

日比谷図書文化館 コンベンションホールB1F

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4

参加費 = 800円(資料代)

申し込み = パソコンから：<http://e-shift.org>

お電話で：03-6909-5983 (FoE Japan 事務局内)

